

パキスタン KOZ氷河クライミングツアー

佐藤 裕 介 (THE NORTH FACE ATHLETE、鶴城山岳会)

順応山行中、セラック帯と落石の影響で仕方なく泊まることとなった不安定な標高5,300mの宿泊地では、夕陽が最後まで左岸壁を照らし続け落石が夜になっても続いた。

夕方には想定外の軌道で転がり続けた頭大の落石がテントをかすめパートナーの足元で止まる。あわや直撃という事態に2人で唖然と見つめ合ってしまった。苦労して更に奥まった安全と思われる場所に移動したものの破壊的な恐ろしい落石音を聞きながら落ち着かない夜を過ごした。高所順応の為過ごした5,300mのセラックの狭間で今年のこの谷の異常さを思い知らされた気がする。冬の降雪の少なさと異様な暑さが昨年と全く違う状況にさせたのだろう。パキスタンでの遠征登山は9回目となるがここまで落石の間隙を突きながらの登山は初めてだ。この順応山行で目標としていた6,000m弱のピラー周辺に初めて近づき山の様子を間近に観察して落石の危険性を、身をもって知ることとなった。

昨年、増本・長門パーティーでKOZ氷河への偵察に訪れた際には氷河上の安定度や谷全体での落石頻度は全く異なる状況であったという。今年はBCでさえ夜間でも落石の恐ろしい轟音を聞かされることがあり今回の順応山行2泊目周辺での落石は私たちが怯えさせるに十分だった。2泊目宿泊地近くで落石を落としていた壁の状態と目標としていたピラーに続くルンゼ上の壁の状況が大きく変わるとは思えなかった。ピラーに取付くためには落石の危険性がある壁の下にあるルンゼを辿らなくてはならない。ピラー登攀を行う為に必要な装備・食料を上げなが

らルンゼを登りきるには数日が必要でその間、落石を受けずに切り抜けることは運任せになってしまうだろう。順応登山3日目下山中にもルンゼを横切るタイミングがあと15秒くらいズレていたら落石に遇いそうな危険な状況もあった。問題のルンゼを対岸から観察した後、ルンゼ取付きまで行ってルンゼを見上げてやはりこのルンゼを登攀するのは危険が大きすぎると判断。当初目標としていたピラーの登攀を断念することに決めた。

この谷で落石に怯えることなく出来ることを探した結果、ピラー前衛壁の末端から尾根通しに前衛壁のピークを目指す事を第一目標と定める。傾斜のある前衛壁自体も遠目には魅力的に見えたがしつかり観察すると逆層である上に節理が閉じていてフリークライミングでの登攀は厳しそうに見えたことから傾斜の緩いリッジの登攀を選択した。落石のリスクは許容範囲になるだろうが複雑なリッジの登攀や下降は手間がかかりそうだった。

雪が取れない可能性を考え3日分の水を担ぎ喘ぎながら登攀を初めて長い尾根にロープを伸ばし続けること21ピッチ、約1,100m。アタック日は長時間行動になったものの明らかに脆そうな土色の最後のピークも諦めずに登ることができ満足行く結果となった。

BCに戻ってからも直ぐ裏のアプローチ至近の硬い壁に8ピッチ400m程のルート。更に5.12aを含む良いクオリティの楽しいルート(5ピッチ)を新たに引けたことも嬉しい成果となった。

3. 海外登山記録

2025年 8月17日～10月 4日

BC滞在は8月24日～9月28日の33日間。標高6,500mを超え下部に大岩壁を持つコズサルを目指す増本・長門パーティーの登山期間と日程を合わせた為、6,000m弱のピラーを目指していた我々としてはかなり余裕のある日程となり、メインとして設定したトライの後もクライミングを楽しんだ。

順応を経てKOZ氷河では概ね以下のような日程で行動した。

① 9月2～12日 前衛壁ピーク

21ピッチ1,100m 5.10A0

② 9月15～22日 BC 壁左ルンゼ

8ピッチ400m 5.11A0

③ 9月24～26日 BC 壁右壁

5ピッチ120m 5.12a

すべて坂本健二、佐藤裕介の2名で登攀を行った。

3つの登攀ルート詳細は以下の通り。

① 前衛壁ピーク登攀 詳細

前衛壁ピークに至るリッジクライミングでは傾斜の緩い部分が点在していて荷揚げすることは現実的でなかった。加えてリッジ上に雪が全くない時もあった。ビバーク地に雪がない可能性も十分に考えられたので今回はトライ期間の水を持参する必要があっ



前衛壁ピーク

た。自分たちが上げられる重量を鑑みてゴーアップ後の日程を2泊3日と定めると共に下部を持参した5本のロープを予めフェックスすることにした。

9月3日 下部フィックス

前衛壁の末端取付き近くのABCを星空の元、ヘッドライトを灯し早朝出発。まずは傾斜の緩い左上凹角を60m伸ばしピトンでビレイ点を作った。一部傾斜の強く小ハング状を緊張しながら越えると傾斜は緩くなったが小雪がチラツキ出し2ピッチ目を終える頃には予想外の本降りの雪となってしまう。フォローが登り終えた時には岩に雪が積もった状態になりとてもクライミング出来る状態では無くなってしまった。雪も降り続いて下降するしかないかとも思ったが少しビレイ点で留まっていると降雪も落ちついてきて晴れ間も出てきた。雪が溶けてくるまで停滞。しばらくすると概ね雪が溶けたが岩は濡れている。割と悪条件に強い佐藤が再びリードすることに。濡れた3ピッチ目を登り始めた。前半は傾斜弱く順調だったが終盤の傾斜の強い部分は苔の着いたフットホールドが滑りまくりエイド混じりで何とかピナクルまで50m伸ばした。小さなギャップをクライムダウンしてから容易な30mを伸ばしてピトンを設置。取付きから良く目立っていた第一岩壁のフェースに取付き豊富なクラックを快適に繋いでロープを伸ばした。終盤はクラック自体が動く脆い部分があり緊張感ある登攀となったが持参した5本のロープ全てをフィックスすることができた。

9月10日 ゴーアップ1日目

2:20 ABC

3:00 取付

13:30 C1予定地からフィックス作業開始

17:00 C1

前回のフィックス後、悪天周期をBCでやり過ごし再びABCに戻ってきた。ABCで泊まって深夜1:30に起床。2:20出発。ヘッドライトで前回フィックスした4ピッチ半をユマーリングし明るくなった頃5ピッチ目の登攀を開始した。リードは2つのマットのみを入れた軽いザック。セカンドは生活道具一式と3日分の水として用意した10リットルの水が加わり多くのピッチは苦しいユマーリングとなった。



前衛壁ピーク 5 P目

朝日が昇る前に第二岩壁と呼ぶに相応しい立派な岩壁が現れる。前衛壁のピークまでの間で最も大きな壁だろう。前半はしっかりとしたクラックにロープを快適に伸ばすことができる。第二岩壁2ピッチ目は節理が閉じ気味の部分もあって一部ナッツなどのA0が入り時間もかかった。ビレイヤーはかなり寒く東の稜線から陽が昇るのが待ち遠しい。このピッチで第二岩壁をほぼ登り終えて更にガレた20mを進むと一旦広めの台地状となった。ピークに続くリッジ状には幾つもの岩壁が控えているがテントを張ってビバーク出来る平地が次いつあるか不明である。ここをビバーク地と決めザックをデポし、2ピッチ分のフィックスを張るべく空身で登攀を再開した。リッジ上の断続的な壁を1ピッチ半登ると小ピーク。先のコルに降り立つには垂直の懸垂下降が必要だった。下山時の登り返しが厄介そうだ。コルから簡単

な緩傾斜を佐藤がフリーソロで更に30m伸ばしフィックス完了。その間に坂本が下降時登り返しに使う凹角上にある不安定な浮石を落とす作業をして帰りに備えた。



前衛壁ピーク 7 P目

フィックス作業を終え暗くなる前にザックデポ地に戻った。日陰には数日前の降雪の雪が残っていた。ガラガラに大石が転がっていた部分を1時間程掛けて整地し何とか2人が寝られるスペースを作りテントに潜り込んだ。崖が直ぐ脇に控えていて少々緊張するがロケーションは最高だ。

9月11日 ゴーアップ2日目

4:00 C1ユマーリング開始

14:20 前衛壁ピーク（標高5,300m）

21:15 C1

今日もヘッドライトを灯しながらユマーリング開始。明るくなった頃、登攀を再開した。最初のピッチは日中でも日陰となっていて雪が残っている部分が多かった。時折クライミングシューズで雪を踏みしめながらのスタート。ピッチ終盤は傾斜が強く気の抜けない部分が多かった。ピーク2つ分を巻くようにスッキリしたフェースをトラバース気味に登り、リッジから豪快にアンダーフレイクを越えてクラックを進んだ。いかにもリッジのクライミングと

3. 海外登山記録



前衛壁ピーク 重荷のフォローはユマーリングとなった

という感じの複雑なライン取りになったので、登攀ラインとは別な下降ラインとなるだろう。中々厄介そうだ。

16P目はリッジ上の大岩を巻いたり登ったりしながら進み60mロープを一杯に伸ばした後も10mほど同時登攀して当初目標としていた第一ピーク到達。遠目からは相当に脆そうな茶色の岩壁を持った前衛壁ピークが100m程先に見える。時刻は11:30。引き返しのリミットを一応13:30としてスタートしていたがあのピークを登ったら厳しいかもしれない。そもそも登れる代物なのか怪しかったが取り敢えず取付きまで進んでみることにした。黄色がかった茶色の砂くずで出来た尾根を歩いていると硫黄の匂いが鼻をつく。前衛壁ピークの岩壁を見上げると最初はかなり脆そうだがメインの中間部の凹角は岩も白く登れそうに見えた。行ってみよう。

非常に脆い最初の部分は足元を崩しながら何とか這い上がった。崩れ落ちていく岩屑は斜面のガレを巻き込んで岩雪崩の様に発達する。盛大に土煙を上げ谷はそれに覆われた。

次の登攀中の落石を避けられそうな岩の基部でピッチを切り、続く凹角の登攀開始。幾つもの浮石を落としながら60m進むが岩自体は意外と硬い部分が多かった。ピーク直下はまた岩質が変わり茶色の岩

が積み重なった様な脆い岩となる。傾斜もあり一部被っていて慎重にロープを伸ばすとピークに飛び出した。360度見晴らすことの出来る素晴らしい景色を少しの間楽しんだ。既に14:20。テントのあるC1に辿り着くにはヘッドライト行動になることは確かだろうけど、特にルート取りが複雑な上部は明るい内に切り抜きたい所だ。ピークから最初の7mをクライムダウンしてから懸垂下降を始めた。随所に緩傾斜が出てきて、転がっている角の立ったガレは直ぐにロープをスタックさせた。ロープスタックが怖くて60mロープを2本繋げての懸垂下降はほぼしなかったが、それでもロープスタックで登り返しを強いられることもあった。登攀ラインと別のラインを下降することも多くルートファインディングは複雑で下降には時間がかかった。闇に包まれながらも下降を続けテント場に戻れたのは21時を過ぎていた。



前衛壁ピーク 脆そうな最終ピーク

9月12日

C1 6:30

ABC 14:00~15:00

BC 18:00

今日は下降のみ。昨日の長時間行動の疲れもあったしゆっくり起きたい所だったが、今日中にBCに戻りたかったので白み始める頃には起床して行動を



前衛壁ピーク 使用ギア

開始した。懸垂下降後、毎回祈るような気持ちでロープを引き抜いた。ロープスタック&登り返しは2度することになったがそれくらいで済んだのは幸いとも言えるだろう。

安全なABCに着いて休憩後BCに向けて下山開始。フィックスしたロープなどを含めると大量の荷物となってしまうが一気に降ろしてしまいたい。ロープやカムを強引にバックへ外付けしヨロヨロとBC目指した。

② BC壁 左ルンゼルート 8ピッチ 425m 5.11 A0
9月15日 2P目までのフィックス。午前中、2ピッチ登攀。BCに戻って美味しい昼飯を食べるという贅沢なプランだ。



BC壁左ルンゼ全景

7:20 BC
7:35 取付
8:30 登攀開始
13:00 2P目終了点
13:20 取付
13:30 BC

9月20日 3～4P目登攀。

9:30 BC 出発
18:40 BC 到着

初日の登攀後、数日の悪天をBCで過ごして更に2Pのフィックス。このラインの中で最も目立っている右上クラックを登る3P目のクラックは後半部分に土が詰まっていた初見のトライではフリークライミングで登ることはできなかった。時間に追われるトライではないのでエイドしながら掃除をして一旦ビレイ点にロワーダウン。再度フリークライミングでトライした。4P目も意外と傾斜があり55mロープを伸ばすところには夕方になってしまった。

9月22日 ゴーアップ。流石にこの日は早朝からヘッドライトを灯して出発。

4:20 BC
4:35 取付 ユマー
リング開始
6:30 5P目登攀開始
11:00 登攀終了
14:15 BC

1P目坂本リード
58m 5.10
滝右端のスラブから登り始め凹角から
ハングを越えて緩傾



BC壁左ルンゼ1P目

3. 海外登山記録

斜帯を左ヘトラバース。トラバースの出だしが悪く緊張した。左のバンドに乗ったら左上に見えるワイドフレーク目指して逆層フェースを登る。

2P目 佐藤リード 52m 5.10+

ワイドフレークはフットホールドもあり容易に這い上がる。その上の草付は意外と傾斜がありプロテクションも悪く怖かった。鎌で草を取り除き何とかカムを決めて登った。草付きを越えてからクラックを登るが一部傾斜強く声が出てしまう。序盤はしっかりしたクラックだったが上部は所々脆く慎重にロープを伸ばして小ハング手前まで。

3P目 坂本リード 40m 5.11A0

小ハングを越えるとBCからも目立っている顕著な右上クラックが始まる。フィスト〜バンドサイズのクラックが10m続いたがその先のクラックには土が詰まりテンション。鋸鎌とワイヤーブラシをバックロープで上げて周辺のクラックを大掃除する羽目に。ローダウンして再度トライした。しかし掃除不要だと思っていた終盤傾斜の落ちたスラブ部分が砂砂でリードはエイドが入ってしまう。フォローも何度か落ちそうになりながら何とかフリーでこなしした。体感5.11+。

4P目 55m 5.11 佐藤リード

本流のコーナーに入れば容易になるのではと思っていたが、引き続き傾斜強くチムニー状のハングをいくつか越えて行かなければならずリードにかなり時間がかかってしまった。フォローする時間が無く途中で下降開始。BCに着く頃には暗くなってしまった。

5P目 坂本リード 55m 5.10-

凹角沿いに15m進むと浮いたフレーク。それを避けるため右に10mトラバースして上がる。そのままクラックを進み傾斜が緩んだ所で左上した。

6P目 佐藤リード 55m 5.9

5m程の垂壁を左の凹角から越えると一気に傾斜

は緩む。上部バンドを進み大岩上のクラックでビレイ。

7P目 坂本リード 65m 5.10+

バンドを10m進み上部壁の登攀。基本逆層だが適度にプロテクションが取れ快適なフリークライミングを楽しむ。

8P目 佐藤リード 45m 5.7

傾斜の落ちた壁をリッジ上まで。

下降

リッジ裏から懸垂下降とガレた谷の歩きで下降するつもりだったがリッジから反対側を覗くと何本カリッジが谷へ走っていて意外と複雑そう。まずは70m程リッジをクライムダウンしてから懸垂下降。緩傾斜帯をトラバースして再び懸垂下降。トラバースを混じえて結局4回の懸垂下降で谷へ降り立つ事が出来た。下降は全て岩角利用でギアも捨てることなく下降できて満足。

③BC壁右壁 ジョイフルモーメント

5 ピッチ120m 5.12a

遠征期間終盤に築いたマルチルート。傾斜の強い凹角状を行くが岩も硬く楽しいルートとなった。



BCジョイフルモーメント全景

1P目 坂本リード 20m 5.10

出だしのハング上の草付を掃除するのが大変でリードは顔を真っ黒にしながら頑張った。ハング上の数メートルを過ぎるとしっかりした快適なクラックとなり快適な草付きテラスでビレイ。

2P目 佐藤リード 25m 5.10+

出だしのハングはガバガバで快適に超える。クラックを直上しハング下を右にトラバースして左上ランペの上でビレイ。



ジョイフルモーメント 2P目

3P目 坂本リード 15m 5.10

フットホールドが乏しくステアリング中心の左上ランペを15mで大きなテラス。

トライ初日はテラスから右に折り返し草付きの多いフェースを掃除しながら苦労してハング下でビレイ。更に4P目のハングを佐藤がフリーでトライしたが外傾ホールドばかりで3回程フォールして選手交代。坂本もフリーでは駄目でネイリングして終了点まで到達する。初日のトライはここで終了。一旦下降した。

悪天日 1日を開けて再び壁に戻ってきた。50mの空中ユマールを経てテラスに到達。前回フリークライミングで抜けられなかった4ピッチ目のハング越えは2ラインを各自ロープにぶら下がり掃除して再度フリークライミングトライした。

4P目左 坂本リード 25m 5.11+

傾斜は強いがアンダーポケットやホールドがしっかりあり楽しい内容。

4P目右 佐藤リード 30m 5.12a

グラントアップ時もトライしていたラインで左ラインよりは傾斜無いが外傾ホールドばかりで嫌らしいクライミング。リード時はギリギリで吠えながら突破した。

5P目 坂本リード 30m 5.11-

出だしのハングは掃除すると良いホールドが出てきて突破。その後は逆層スラブなのだが雪が降ってきて濡れた岩に恐る恐るロープを伸ばした。傾斜が緩くなった部分で終了。2回の懸垂下降で取付きに降り立った。



ジョイフルモーメント 5P目